



復活 吉敷竹史！
20年振りの新作長篇。
江戸、昭和そして現代
まで続く謎の連鎖。

2019年8月28日発売予定
定価（本体2100円＋税）
四六判上製カバー装
総頁：528ページ
装画：永井秀樹
装丁：関口聖司

盲剣楼 奇譚

島田荘司

本書の内容

江戸時代から続く金沢の芸者置屋・盲剣楼で、終戦直後の昭和20年9月に血腥い大量斬殺事件が発生した。軍人くずれの無頼の徒が楼を襲撃、出入り口も窓も封鎖されて密室状態となった中で乱暴狼藉の限りを尽くす五人の男たちを、一瞬にして斬り殺した謎の美剣士、それは盲剣楼の庭先の祠に祀られた伝説の剣客「盲剣さま」だったのか？

御手洗潔シリーズと並ぶ人気シリーズ20年ぶりの長篇新作。怒涛の1300枚、

著者プロフィール

1948年、広島県生まれ。武蔵野美術大学卒業。1981年『古星術殺人事件』でデビュー。以降、『斜め屋敷の犯罪』『異邦の騎士』などの御手洗潔シリーズ、『北の夕鶴 2/3の殺人』『奇想、天を動かす』などの吉敷竹史シリーズで本格ミステリーの旗手となる。近年では、「ばらのまち福山ミステリー文学賞」や華文ミステリーの新人賞「島田荘司推理小説賞」の選考委員を務めるなど、後進の育成にも尽力している。